

事例番号:310065

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第五部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

1 回経産婦

2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 38 週 5 日

10:30 骨盤位、予定帝王切開のため入院

4) 分娩経過

妊娠 38 週 5 日

14:13 帝王切開により児娩出、骨盤位

5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:38 週 5 日

(2) 出生時体重:2772g

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.317、PCO₂ 43.3mmHg、PO₂ 22.6mmHg、

HCO₃⁻ 21.5mmol/L、BE -3.6mmol/L

(4) アプガースコア:生後 1 分 9 点、生後 5 分 10 点

(5) 新生児蘇生:実施なし

(6) 診断等:

生後 8 日 退院

1 歳 6 ヶ月 精神運動発達遅滞の疑い

(7) 頭部画像所見:

1 歳 11 ヶ月 頭部 MRI で、両側脳室周囲白質に前頭部から後頭部にわたっ

て、T2、FLAIR 高信号の変化を認め、脳室拡大は認めず、低酸素虚血による脳障害を疑う所見を認める

6) 診療体制等に関する情報

- (1) 施設区分: 病院
- (2) 関わった医療スタッフの数
医師: 産科医 2 名
看護スタッフ: 看護師 3 名、准看護師 4 名

2. 脳性麻痺発症の原因

- (1) 脳性麻痺発症の原因は、低酸素虚血による脳障害(白質障害)の可能性があると考える。
- (2) 低酸素虚血の原因および発症時期を解明することは困難である。

3. 臨床経過に関する医学的評価

1) 妊娠経過

- (1) 妊娠 33 週の健診で骨盤位のため妊娠 38 週 5 日に帝王切開の方針としたことは一般的である。
- (2) その他の妊娠中の管理は一般的である。

2) 分娩経過

- (1) 妊娠 38 週 5 日の帝王切開当日の対応(内診、超音波断層法、分娩監視装置装着、骨盤位であり帝王切開のため入院としたこと)は一般的である。
- (2) 分娩管理(帝王切開時)は一般的である。
- (3) 臍帯動脈血ガス分析を行ったことは一般的である。

3) 新生児経過

- (1) 出生後および高次医療機関 NICU から転院後の新生児管理は一般的である。
- (2) 発熱、皮膚所見から感染症の精査目的のため、出生後早期に高次医療機関 NICU へ搬送としたことは適確である。

4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

- 1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

観察した事項や処置、それらの実施した時刻については、診療録に正確に記載することが望まれる。

【解説】 本事例は、妊産婦の受診時刻、出血量等観察した内容や観察、処置を行った時刻についての記載がなかった。観察事項や処置、それらを実施した時刻については正確に診療録に記載することが重要である。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

脳性麻痺発症に関与すると考えられる異常所見を見出すことができない事例を集積し、疫学調査や病態研究等、原因解明につながる研究を推進することが望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。